

●令和6年度 第1回 日南市総合教育会議 会議録

市総合政策部総務課（総務係）作成

- 1 日 時 令和6年8月22日（木）14時30分～15時25分
- 2 場 所 日南市役所別館2階会議室5
- 3 出席者 日南市長 高橋 透  
日南市教育委員会  
教育長 都 甲 政 文  
教育長職務代理者 黒 木 由 香  
委 員 別 府 信 一  
委 員 八 木 真紀子  
総合政策部長 宮 口 美 子  
教育部長 鬼 束 昌 義
- 4 事務局 総務課長 高 橋 貴 浩  
補佐兼総務係長 阿 部 啓 行  
未来創生課長 浜 辺 貴 志  
未来創生課副主幹 山 倉 一 浩  
学校教育課担当監 藤 岡 博  
生涯学習課長 重 永 康 彦
- 5 協議事項  
（1）日南市教育大綱について  
（2）「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」の概要について  
（3）日南市の出生をめぐる状況
- 6 会議録 別紙のとおり

《総務課》

それでは皆さんお待たせいたしました。  
ただいまより令和6年度第1回日南市総合教育会議を開会いたします。  
私は本日の進行を務めます、総務課の高橋と申します。  
よろしく願いいたします。  
本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。  
お配りしております会次第に沿いまして、進めさせていただきたいと思ひます。  
まず、2番、市長挨拶となっております高橋市長よろしくおねがひします。

《市長》

皆さんこんにちは。  
お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。  
まずは、先の震度6弱の地震で被災された皆様には、謹んでお見舞ひ申し上げます。  
お昼のニュースで、屋根瓦の修理や墓石の修理が1年ぐらひかかるのではないと、被害の状況が流れておりました。  
公共施設につきましても、多目的体育館のアリーナは年内使用不可という状況であります。  
また、文化財もかなり被害が出ておりました、飢肥城の由緒施設や油津の登録文化財など、相当数の被害が出ておりました。  
費用もかかりますが、時間がかかるようであります。  
観光面に支障がないようですが、なんとか復旧を急ぎたいと思ひますので、御理解と御協力をいただきますよう願いいたします。  
教育長と教育委員の皆様方には、日頃から教育行政に御尽力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。  
この会議は、私と教育委員会がそれぞれの角度から、様々な議論を重ねることで、両者が教育行政の方向性を共有し、連携して日南市の教育環境の充実・向上を目指すものであります。  
これまで、中学生が市内高校へ進学することに対する課題や、教員を志す生徒たちにスポットをあてた取組などについて、議論させていただきました。  
本日の協議内容につきましては、1つ目に、令和3年度に策定いたしました、「日南市教育大綱」が今年度で終了することから、新たな教育大綱につきましても、議論をしていただきたいと思いますと考えております。  
2つ目に、「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画の概要について」、3つ目に、「日南市の出生をめぐる状況」についてを予定しております、委員の皆様からの忌憚のない御意見を賜り、これからの日南市の施策に活かしてまいりたいと考えておりますので、今日はよろしく願いいたします。

《総務課》

市長ありがとうございます。  
次は、3番の協議事項となっております。  
本総合教育会議につきましては、関係法令の規定により公開することとされており、本日は傍聴者もお越しいただいております。  
また会議の内容は、後日、ホームページで公開させていただくこととなっております。  
それでは、ここからは、高橋市長が座長となりまして、進行させていただきたいと思ひます。  
高橋市長よろしく願いします。

《市長》

会次第の「3 協議事項」につきましても、私の方で、進めてまいりますので御協力よろしく願いします。  
議題1、「日南市教育大綱について」です。  
総務課の説明をお願いいたします。

《総務課》

失礼いたします。

私、総務課の阿部と言います。

よろしく申し上げます。

それでは、「日南市教育大綱について」を説明させていただきます。

「1 これまでの経緯について」です。

平成26年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、地方公共団体の長が総合教育会議で協議し、地域の実情に応じ教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱「教育大綱」を定めることとなっております。

文部科学省通知では、抜粋になりますが、第三 大綱の策定についてということで、「1 改正法の概要」のところです。

地方公共団体の長は、教育基本法に規定する基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとする事としたということになっております。

次に、地方公共団体の長は、大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、総合教育会議において協議するものとする事となっておりまして、本日、教育委員の皆様にご意見等をいただきたいと考えております。

次に、日南市教育大綱について、平成28年度に、国、県の教育振興基本計画、日南市重点戦略プラン及び日南市教育基本方針等の内容を参酌して策定しております。

皆様方のお手元の資料2が平成28年度に策定したものになります。

現大綱につきましては、令和3年8月に、日南市重点戦略プラン及び日南市教育振興基本計画を参酌して策定しております。

それが資料3になりまして、内容につきましては、ア 策定の趣旨といたしまして、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、本市の教育行政を推進するための基本方針を定めております。

イ 大綱の期間につきましては、対象期間は、「日南市重点戦略プラン」との整合性を図るため、令和3年度から令和6年度までの4年間としたところです。

ウ 基本的な考え方につきましては、少子高齢化、人口減少といった現状を克服し、活力ある日南市を創造するため、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を目指して、教育における方向性を定めております。

エ 基本方針につきましては、日南市教育振興基本計画を参酌して、5つの方針に基づき、定めております。

まず、(ア) 方針1で、市民参加型の教育の推進、(イ) 方針2で、社会に適応し、自らの道を切りひらく教育の推進、(ウ) 方針3で、自立できる社会人・職業人を育む教育の推進、(エ) 方針4で、魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実、(オ) 方針5で、生涯を通じて学び、挑戦できる社会づくりの推進ということで5つを基本方針としておりまして、教育委員の皆様にご意見等をいただきたいと考えております。

次に、「2 日南市教育振興基本計画について」です。

教育委員会にて、現在の計画といたしまして、令和2年4月から令和7年3月までの5か年間の計画を策定されておられまして、新たな計画を教育委員会も今年度策定予定となっております。

3番では、「教育大綱」の法的位置付け等を記載しております。

後ほど御覧いただきたいと思っております。

次に、(2) 大綱に関する文部科学省の考え方につきましては、① 定義、ア 大綱は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものである。

イ 大綱は、教育基本法に基づき策定される国の教育振興基本法における基本的な方針を参酌して定めることとされているが、教育の課題が地域によって様々であることを踏まえ、地方公共団体の長は、地域の実情に応じて、大綱を策定するものである。

ウ 大綱の対象期間については、4年から5年程度を想定している。  
ということになっております。

次に、②の教育振興基本計画その他の計画との関係につきましては、ア 地方公共団体において、教育振興基本計画その他の計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると位置付けることができると考えられることから、地方公共団体の長が、総合教育会議において教育委員会と協議・調整し、教育振興基本計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、別途、大綱を策定する必要はない。

ということにもなっております。

次に、「4 今後の対応について」です。

総務課といたしましては、日南市重点戦略プラン及び日南市教育基本計画を参酌しまして、新たな教育大綱の策定について、本会議で協議を行っていきたいと考えております。

今後のスケジュールにつきましては、本日が第1回目の日南市総合教育会議の開催となりまして、重点戦略プラン、市教育振興基本計画との整合性を図りながら策定していきますので、2回目の総合教育会議を11月又は12月の開催を考えております。

また、3回目を2月又は3月に策定したものを御覧いただきたいと考えているところです。説明は以上になります。

《市長》

ありがとうございました。

説明に対しまして、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

《総務課》

今後策定する予定で説明させていただいております。

委員の皆様から、大綱に記載すべき内容の項目など、御意見がございましたら、参考にして今後、策定に向けて進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

《市長》

教育振興基本計画その他の計画との関係について、教育振興基本計画をもって大綱に代えることができることについて、市の考え方を説明してください。

《総務課》

事務局といたしましては、大綱は策定する方向で考えております。

ただし、教育大綱の策定については、この会議の中で協議を行ってまいりますので、教育振興基本計画を大綱に代えても良いのではないかと、委員の皆様方より御意見をいただいた場合には、教育振興基本計画を教育大綱に代えることも想定されますが、基本的には教育大綱を策定していくという前提で、今後、進めていきたいと考えております。

《市長》

何か御意見等はありませんか。

よろしければ、この大綱につきましては、終わりました次の議題に移ります。

「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画の概要について」です。

未来創生課の説明をお願いします。

《未来創生課》

未来創生課長の浜辺と申します。よろしく申し上げます。

「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画の概要について」、計画策定までの経緯、まちづくり計画の概要について説明させていただきます。

令和3年12月に戸村サチ子様より8億円の寄附を受領いたしました。

寄附の目的につきましては、油津地区の歴史文化の伝承、堀川運河周辺の賑わい創出のために役立ててほしいという内容でした。

具体的な中身については、「歴史資料館の整備」、「花峯橋の復元」の2つが主なものとなっております。

戸村様からの寄附金8億円を財源に令和4年3月に「日南市油津文化遺産振興戸村基金」を

創設させていただきました。

基金の目的は、1 歴史・文化遺産等を活かした地域づくりに資する事業、2 歴史・文化遺産等の展示に関する事業、この2つの事業に有効的に活用していくこととしております。

この基金の目的を踏まえ、令和6年3月に「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」を策定したところです。

計画策定の目的、背景につきまして説明します。

現状と課題につきまして、現状では、計画策定に当たりまして、4つほど、現状、問題を整理させていただいております。

人口減少や高齢化に伴い、歴史文化遺産を保全・活用する人材が減少している。

東九州自動車道の延伸やクルーズ船寄港回数の回復により、増加が期待される来訪者を受け入れる場所がない。

歴史文化遺産の存在やその価値に対する認知が広がっていない。

油津地区に豊富に存在する歴史文化遺産は、活用が十分でなく、老朽化が進んでいる。

これらの現状・問題を踏まえ課題を3つ設定したところです。

歴史文化遺産の継承を図っていくことが必要である。

将来的に地域を維持していくことが必要である。

市全体における観光振興を図っていくことが必要である。

と3つを設定したところです。

3つの課題につきまして、目標とコンセプトを設定しております。

目標といたしましては、歴史文化遺産の活用により魅力あるまちを形成し、新たな人の流れを取り込むことで、交流人口や関係人口の増加を目指す。

としており、交流人口や関係人口の増加を目指すために、コンセプトとして堀川運河周辺の歴史・文化を感じ、居心地のよい歩きたくなるまちとしております。

事業内容としまして、計画自体は、令和6年度から令和10年度までの5か年計画です。

総事業費は、約15億円を想定しております。

財源については、日南市油津文化振興戸村基金と国庫補助金等の有利な財源を活用して、事業を進めていきたいと考えております。

こちらの方の事業展開として4つの柱を当てさせていただいております。

①観光資源の整備、②周遊促進、③情報発信、④人材育成

この4つの柱を基に事業を展開していくこととしております。

大きな事業の1つとして、戸村さんから御希望のありました、歴史資料館の整備として、ガイドダンスセンター（資料館）整備事業です。

事業費概算4億7千万円となっております。こちらにつきましては、市役所の油津別館を活用いたしまして、地域の歴史や文化、伝統を紹介する機能を有するとともに、地域住民と観光客が交流できる機能を有した、まちの周遊の拠点となるガイドダンスセンター（資料館）を整備します。

また、地域の魅力発信のため、ホームページの開設やパンフレット作成も計画に盛り込んでいるところです。

事業についての期待される主な効果については、  
・油津地区の歴史文化の伝承  
・来訪者や市民が油津地区の歴史文化遺産を学ぶ場  
・地域住民と来訪者との交流の場  
・誰でも自由に利用でき、くつろげる場

となることを想定しての事業です。

水辺利活用事業です。事業費概算7億3千5百万円であります。

大きな事業費ではありますが、具体的な取組といたしましては、花峯橋再生事業として、国の登録有形文化財である花峯橋の復元整備、そして、花峯橋を活用したイベントの企画、また、体験型観光メニューの創設などに取り組んでいく事業であります。

下の方に周遊促進事業とありますが、水辺を活用した周遊戦略として、周遊ルートや案内サインなどの整備も行っていきます。

期待される主な効果といたしまして、  
・橋を活用したイベント等による、集いの場の創出  
・来訪者の滞在環境を向上  
・滞在時間の延伸による地域活力の向上

を目指してまいります。

河野宗泰家活用事業です。

事業費概算 1 億 7 千万円で、国の登録有形文化財である河野宗泰家を改修し、観光客や地域住民など、多様な人々が交流、滞在できる「まちなかハブ」としての整備を目指すものです。

具体的取組のところに河野宗泰家庭園整備事業とありますが、庭園の方も休憩スペースとして整備いたしまして、利用者が居心地よく快適な空間を創出します。

また、合わせまして、赤レンガ館整備事業として、赤レンガ館との連携、人が集まり、居心地のいい空間を創出するため、赤レンガ館への飲食店などへの整備の検討も行っています。

期待される主な効果として、 ・地域住民と観光客等の交流の促進 ・歴史的な街並みの景観向上を図っていく事業としております。

空き家活用事業で、事業費概算 5 千万円ですが、こちらの具体的取組の概要として、民間投資による既存施設の再生、そして資金の確保や継続して運営できる民間主導の体制づくりの検討を行っています。

期待される主な効果として、 ・歴史文化遺産の継承 ・歴史文化財を活用した地域の賑わい創出などを図っていく事業です。

市民協働によるまちづくり検討で、事業費概算 1 千 2 百万円です。

具体的取組につきましては、市民活動支援事業といたしまして、イベント等を通じて、市内外からの誘客に努める市民団体の活動を支援する事業です。

市民フォーラムの開催として、市民活動等の事例を発表するなどの市民フォーラムを開催し、地域全体でまちづくりの機運を高めていく事業です。

次に、まちづくり検討会の設置と記載しておりますが、令和 6 年 5 月 15 日に第 1 回会議を開催し、油津歴史文化遺産活用事業推進会議を設置いたしました。

こちらは、事業に対する進捗の共有及び提言等を行いながら、官民一体となって事業を進めてまいります。

スケジュールにつきまして、ガイダンスセンター整備事業の改修工事につきましては、令和 7 年度を予定しております。

水辺利活用事業におきまして、花峯橋の整備ですが、復原工事を令和 8 年度に予定しております。

また、河野宗泰家整備事業ですが、主屋の整備改修工事につきましては、令和 8 年度から 9 年度にかけて、また、庭園の整備につきましては、改修事業を令和 9 年度に予定しております。

計画の推進体制としまして、行政だけではなく、市民や関係団体、民間事業者と連携して、油津の歴史文化遺産を活用したまちづくりを進めてまいります。

行政、市民・関係団体、民間事業者の役割に応じて、進めてまいりたいと考えております。説明は以上になります。

《市長》

ただいまの説明に対して、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

《別府委員》

スケジュールについて、教えていただきたい。

ガイダンスセンター整備事業の改修工事については、令和 7 年度に完成するというところでよろしいでしょうか。

《未来創生課》

令和 7 年度末に完成予定としております。

《市長》

他に御質問等はありませんか。

ないようですので、次に議題 3 「日南市の出生をめぐる状況」です。

未来創生課の説明をお願いします。

## 《未来創生課》

それでは、「日南市の出生をめぐる状況」につきまして、御説明いたします。

日南市出生数の推移につきまして、折れ線グラフにつきましては、平成26年から令和5年まで数値を載せております。

表の下の方に、資料、県の現住人口等調査、期間は前年10月1日から当年9月30日までで、こちらは県の統計の数値になります。

出生数につきましては、平成26年は417人でありましたが、令和5年は226人ということで、途中増減はありますが、年々減少傾向にあります。

近年の出生数は300人を下回る状況となっております、今後、200人を下回る恐れがあるのではないかと考えられます。

右上の方の数値で、平成26年以前の出生数を参考に記載しています。

昭和62年が852人、平成4年が700人、平成9年が575人、平成14年が472人となっております。

宮崎県・少子化要因「見える化ツール」につきましては、宮崎県のホームページで公表されている資料になります。

日南市の内容につきまして、紹介させていただきます。

合計特殊出生率2018年から2022年、平成31年から令和4年の日南市の合計特殊出生率につきましては、1.63となっております。

この数値は全国値を0.3ポイント上回っておりますが、県全体とほぼ同じ値で出生率が推移しています。

下の方に合計特殊出生率の推移の折れ線グラフを載せております。

解説のところに、全国より高く、県全体とほぼ同じ値と紹介されておりますが、県内の拠点都市の中では、出生率は低めとなっております。

長期的に社会減が続いており、このことが出生数減少の要因とみられます。

2013-2017年から2018-2022年にかけて出生数の減少が大きくなったことには出生数、母の年齢15~49歳、年平均の推移の棒グラフのところですが、13-17年379人、18-22年303人と示されています。

こちらの減少が大きくなりますと、出生率の低下も大きくなっていきます。

日南市の出生構造ということで、出生構造のレーダーチャート2018-2022年の年の平均値が示されています。

【女性有配偶率】、【有配偶出生率】の説明ですが女性有配偶率について、出生構造レーダーチャートの右側に載せております。

特定の年齢階層の女性のうち、配偶者がいる女性の割合を示す指標です。

20歳代の女性有配偶率がマイナスであると、全国よりも晩婚化が進んでいることが考えられます。

出生構造レーダーチャートの0.00のところ、全国値の数値です。

日南市の場合は、20-24歳までが、0.13で全国数値よりも上回っております。

有配偶出生率は、レーダーチャートの左側になります。

結婚している女性千人あたりの出生数の割合を示す指標で、特に第1子の有配偶出生率は、結婚後に初めて子どもを持つ割合を示します。

レーダーチャートを見ますと、第1子のところですが、全国の値より低い数値を示しております。

こちらの具体的な数値は、全国では、33.7人に対しまして、日南市は31.8人となっております。

第3子や第4子がプラスであると、全国よりも大きい数値を示しています。

日南市の若年層の社会動態については、2015年、平成27年から2020年、令和2年にかけての社会動態の状況を表したもので、県内移動と、県外移動に分けて表示しております。

人口移動を見ますと、県内移動では、15-19歳の男女で大幅な転出超過となっております。

県外移動でも15-19歳の男女で大幅な転出超過となっております。以上で紹介を終わります。

《市長》

ただいまの説明に対しまして、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。  
資料を見ていただきますと、いかに日南市の出生数が少ないかが分かります。

表では色で出生数を表していますが、さすがに宮崎市の色が薄く、県内九市でいいますと、宮崎市、その次が日南市で出生率が低く、串間市や都城市、小林市、えびの市は高いようです。

今日は資料をつけていませんが、令和5年の数値で、小林市より日南市は6000人程度、人口が多いですが、小林市の方が出生数が多いようです。日南市の出生数は深刻な状況です。

《別府委員》

これに関して、小林市の出生数が高い理由や日南市の出生数が低い理由など、原因が分かりますか。

《未来創生課》

小林市がどのような施策を打たれてきたのか、研究中であります。  
この問題には少々お時間をいただきたいと思います。

《市長》

若い女性の転出が多いのも、理由ではないかと思えます。

《黒木教育長職務代理者》

独身女性の比率が高いとか、結婚しているが子どもがいない家庭が多いなど、理由が分かりますか。

《未来創生課》

本日は、資料を持ち合わせておりませんが、そのようなデータはあります。

先ほどの資料の日南市の出生構造のところを御覧いただきますと、第1子のところで、日南市が全国よりマイナスを計上しておりますが、第1子を持たれない夫婦が多いと思われれます。

《黒木教育長職務代理者》

日南市で言うと、産婦人科がないということで、出産に対しての不安があったりとか、環境で出産を悩んでいる方達がいらっしやったりとか、そういうところの分析などは行っておられますか。

《未来創生課》

未来創生課として、そういった資料は持ち合わせておりません。

《市長》

婚姻数が激減していると思われれます。

《黒木教育長職務代理者》

20代、30代の世代で、結婚していない若者が多いということでしょうか。

《八木委員》

それは、日南市だけではなく、全国的だと思います。

《黒木教育長職務代理者》

私の知り合いで、宮崎市の方が時給が良くて、条件の良い仕事を探そうとしている方が30代女性で、3人はいます。

《市長》

その方々は、宮崎市内で結婚しているのですか。

《黒木教育長職務代理者》

まだ独身です。

身動きが取りやすいから、自分の時間を大切にして、結婚に対しての考え方が変わってきているのかもしれない。

《教育長》

テレビの特集で、地方の女性が都会に出て行くという特集を行っておりまして、ある女性にインタビューをしたところ、自分の住んでいたところは、江戸時代、都会は現代、つまりそんな時代を超えて、結局面白味がない。

というようなことを言って都会に出ていく、この資料に出てくる15歳から19歳の件がありますが、1回は、都会に憧れみたいなものがあって、出ていくのかなという感じもします。

《総合政策部長》

今おっしゃった通り、都会に出て行かれると思いますが、東京の出生率がどうかというと、かなり低い状況です。

いろんな要因が考えられますので、分析するのが難しいですが、先ほど、医療機関の話が出ましたが、むしろ、小林市方面の方が、厳しい状況のようです。

《市長》

小林市は、産婦人科がありませんが、日南市は、県立日南病院があり、また、田中産婦人科クリニックが健診を行っていただいています。

医療資源を大事にしていきたいと思います。

《黒木教育長職務代理者》

子育て世代からすると、地元がすごく安心感があるというふうに、肌で感じます。

市外にでていたら、やりづらかったらと感じています。

だからこそ、絶対、地元で子どもを育てたいし、そのことを子どもにも伝えることで、子どもにも、一旦、市外を見るのはいいと思うが、日南市に帰ってきたいと思ってくれるだろうなと考えています。

田舎は田舎で大変さがあるかもしれないですけど、人を育てるには、近隣の方々が私の子どもを孫のように見てくれていました。

そのおかげで、子どもの心が豊かになる環境であると感じます。

《市長》

日南市の強みは地域づくりだと思います。

本市は、自治会加入率が9割近くあります。

他市では、加入率が5、6割のところもあると聞いています。

だから、今、地域力を低下させてはいけない、地域で子どもたちを育てる環境を大事にしていきたいと思います。

2030年までが勝負だと言われていました。

団塊世代のジュニアのジュニアが40代になる2030年までが、出生率を上げる1つのチャンス期間であると考えます。

《黒木教育長職務代理者》

私は、自分の子どもは小さいうちから県外や海外との交流の機会を与えて、日南の良さを分かってもらおうようにしています。

高校生の子どもは、宮崎市内の高校にも通学できたが日南市内の高校に通い、今はオンラインを活用して、都会や世界の人とつながる機会を持っています。宮崎市の団体のセミナーに参加し地域創生について勉強を始めており、日南に住んでいても全国の人と交流したり自分を表

現できたりしています。日南市に人が来てほしいので、日南市が発展するよう何かを自分でしたいと思っています。

市も日南にいてもオンラインでいろいろな人とつながれることを保護者や学生に発信してほしいと思います。

子どものから日南市の良さを知れば、都会に憧れて出ていかないのではないかと思います。

《市長》

以前は、社会教育団体が結構ありましたが、今は子ども会がなくなりました。子ども会では、人のつながりができて、友達の絆が深まったと思います。

《八木委員》

教育大綱とも繋がりますが、他自治体の教育委員と勉強する機会がありました。

和歌山県の橋本市というところは、人口5万人程度で、切れ目のない支援をとということで、こども大綱というのがありました。

地域包括支援センターがありまして、そこは、子ども包括センターが担っていて、生まれる前から子育てが、はじまっており、市の担当課が連携して総括した支援を行い、18歳まで切れ目のない支援を行われています。

子ども大綱というのを日南市でも作られたらどうかと思います。現状は、小学校、中学校、高校で、支援がこま切れになっていると思います。

そうじゃなくて、民生委員や児童委員も入って、繋がりができて、子どもの支援が生まれる前から18歳まで続いていくと、その中で子育てしやすくなり、地域で子育てができる仕組みを作るといいのではないかと思います。

《市長》

教育と福祉の連携ですね。

《八木委員》

担当課が変わると、途中で支援が切れてしまいます。

《市長》

ミライノートというものがあります。

《総合政策部長》

福祉課が作成してします。支援が必要な方などが利用し、関係機関でみんながミライノートを共有して、支援が必要なお子さんを支援しています。

《教育長》

ミライノートを作成して、4年ぐらいになると思います。

《黒木教育長職務代理者》

日南市を気に入って、移住して来られる方も結構いると聞いています。

どこに移住しようか探していて、候補に日南市があるという話をよく聞きます。

《別府委員》

先ほどの話で、子育てがしやすいポテンシャルが日南市にはあると思っています。

そういったのをうまく発信することができれば、子育てするのだったら日南だよねというようになり、おのずと、出生率が上がっていくのではないかと思います。

子育てしやすいまちナンバーワンというのを目指したいと考えています。

《市長》

他に皆様方から何かありますか。  
よろしければ、質疑応答を閉じたいと思います。  
皆様からいただきました御意見等を活かしてまいりたいと思います。  
ありがとうございました。

《総務課》

本日は、貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。  
以上で、令和6年度第1回日南市総合教育会議を終了させていただきます。  
お疲れさまでした。